



中村俊定文庫
文庫 18
54
1



了庵集

良山集逃言

二

馬鹿集卷之二



燕山集春部之内



さす夜にみ梅どのう月れ葉
み梅あはれ月のさまりこそを
こころれをなむ病はふ

咲花みみ梅散る月れこそり
とりこそみ梅散るとは月葉
の侍るゆてけるを

さす夜にみ梅散る月れこそり
とらひ

よれ梅とたうひをて花のあふ
道よ遠れ梅の強ふ梅と梅と
りとの梅とさるよや東山の梅
雪打諱の友梅梅庵よさり

てげ山の名を我諱の字と
しる事一紙集あふのせあり
胡海新開一梅を本母と名つ
くところ別一梅梅抄通とそ
うりところなれども奇道な
社代本母小用ひきされりと
りも従もあれいつ丹能階され
るよと珍るくあ〜〜さま
を別ひ侍りんやま今ふ
言あれは本母に花を咲かたり
つれとむいよとよきあはし
又言のりふ
本母守ふと入つるをさす
とひはあふのりふ

ちるむいそをくや母あ本らんか
とつらるるい本母守といふふよ
り趣向とまゝとて迫みりあゆし
そわりのへ一は卯蝶のりふ
本の母となつていふまゝつお蝶は
とひを梅のりふ
あふまははあ〜まゝ本母かや
とつらもゆり又言のりふ
とつらつてあま本母ふこさふ
とつらたさひと年うすをまを
るての今本母と云うるに用
ひくまふあ青あもよみりふも
はつ〜いのち〜の梅尾とむあ
の尾といひ梅津梅のまを

引はらむ露や梅のうささら
雪れりよ

去る雪は流むや松のささけ
とらりよゆり

色と香は目と鼻とて梅色
毛吹きよ

白鼻と目とあつる梅の色
とりりよゆり

むめのもきはふかぬとらり
花の匂よ

とらりすらけと枝のささけ
とりりよゆり

白ひきぬさいじんきりとの梅
左寄よ

あつらひきりともあつぬ梅の
衣を枕ふたれおげりよ

梅の香は花のあつるきり
袖を白く雲のふ風

さつらりよあつる梅の匂
そなつらりかきりよ白ひきり

いとあつるさじんきりとの梅乃
白ひきりきりん事いあつらよ

さつらりよあつる梅の匂
かつらりよあつる梅の匂

細云あえ
あつらりよあつる梅の匂

新千載集中宮太史公宗母
あつらりよあつる梅の匂

梅の香は白ふらきしおまの御まに
け里のきそとそふんもさし
新松道集侍臣厚款

五月の白ふらきしやあらん
梅さく屋ととそふんもさし
新松道集侍臣厚款

とらさし成りてはつひの梅のむ
さあつらふふさ方のあつら
とらさしあり

梅の本立わけては腰ふさすふ
友本立のりふ

友本立小枝もこましくさすふ
とらさしもつらふ又草蒲のりふ

志願ふかふとさしとつらふさふ
とらさしあり

雪の奇とや清和衣倫有梅
雪のまは成りしとらさしと
とらさしありあふれ款

難波女の花のあひのやさし
花のあひといひて梅と志願ふ
とらさしありあふれあひと
て梅ととらさしあふれあひと
ふらさしとらさしあふれあひと
あふれあひとらさしあふれあひと
母あふれと一ふれあひと
とらさしあふれあひと
梅のあふれと梅のあふれ
とらさしあふれあひと

梅も花のあはれさくやひりもむの
あひつらふ屋うにうさこあまに
こそさきあめれ^開耶^娘地^神
新^代天津^考火^瓊玉^抄
の伝まらよし日^記起^まみ^こり

勅^化すまき^梅花^の白^ひか
牡丹^の白^ふ又^は他^と
勅^作といふん牡丹^れ白^ひか
ともりり

むきそ^新端^の梅^の白^ひか
ま^つこ^御他^借み^とあり又^は
さ^らひ^ふま^へう^き訓^他借^りと
ありと

水^湯の梅^もふ

とゆりかき^新念^れか^らう^と
ゆ^ひつ^けて^えか^め梅^がさ^らか
卯^花れ^白ふ^又は^他と
月^けや^ゆひ^つけ^て垂^つき^ま
ともりり

教^百む^れ梅^やま^はら^ん
毛^明多^よ

梅^やあ^れ花^のこ^もさ^き
ともりり

梅^れも^枝や^はく^みり^思
け^り及^子集^みか^らま^りみ^り
よ^そ他^を述^えと^{あり}長^政丸^を
り^あふ^とま^りす^撰者^も七^都志
た^らぬ^物も^あら^ず

梅つけ母花もすつらつわ乃内
善梅のうふ

枝らうらう善梅つけやほやれ口
とつらもゆり

津とつらや善梅よりも花つらり
大子集よ

花ふ先匠を引梅のちや来うふ
とつらもゆり 七七句を花他へ

よきけてらむどいふくさるる歩
冬氷れ白母

むつらうらうさるくさるしやあつら
とつら口一もく

さゆらあつらや一村のけりさ
あまたらどいけひさるれふ善れ

句よ

善れれ善れしさるぬや善れさ
とつらもゆり

飛火野といふや薪の能れ場
方人「不」見名所ととつら

よ薪の能れ産も飛火野の
あつらとつらふ薪れえんはあ明く

愛てせよ薪の能を四代中島海
七以丸句は是は又を向くたを

と家丹列よせよとつらも
能れ時さる海ふらりての能れ

あつらとつらあつらとつら
又薪の能れ産よその能らうら

愛てせよとつらとつらとつら
他薪の能れ産のをさつらとつら

此海といふ名なれはゆるれ果能
不丹 侍建として不^ぶ察^{さつ}内^{ない}なれい^い之
さすく^くい^いう^う丹^{たん}四^よ座^ざを^を様^{よう}樂^{らく}の^のえ
ん^んありとも^もう^うく^くき^き化^けめ^め
あ^あら^らあ^あふ^ふ人^{にん}は^はり^りを^をと^とて

あ^あの^のま^まま^まま^まく^くて^てな^なみ^みく^く一^一宮^{みや}を^を此^こ海^{かい}
あ^あま^まの^のま^まま^まく^くて^て南^{なん}都^とと^とせ^せせ^せせ^せ

と^とま^まあ^あり^りし^しく^く

志^しや^やふ^ふ別^{べつ}と^とあ^あす^すふ^ふあ^あん^んだ^だあ^あま^まふ^ふ
一^一百^{ひゃく}れ^れん^ん派^{はい}の^のぬ^ぬれ^れし^しく^くあ^あら^らと^とい^いふ
し^しう^うし^しう^う

志^しや^やふ^ふり^りを^を連^{れん}な^なん^んだ^だら^らぬ^ぬと^とい^いふ^ふ
と^とい^いひ^ひて^ても^も難^{なん}陀^だ富^ふ樓^{ろう}那^なの^のし^し

と^とい^いふ^ふあ^あり^り

つ^つま^まさ^さき^き佛^{ぶつ}ふ^ふゆ^ゆ々^々毒^{どく}そ^そん^んが^がや
佛^{ぶつ}証^{しょう}と^とあり^りて^て天^{てん}上^{じやう}天^{てん}下^げ唯^{ただ}我^が
獨^{どく}ぞ^ぞと^とい^いう^う一^一句^くれ^れん^ん佛^{ぶつ}ふ^ふ何^{なに}の^の
毒^{どく}う^うあ^あら^らう^うな^なほ^ほひ^ひて^てわ^わく^くう^うき^きり^り
く^くれ^れと^とい^いふ^ふま^まま^まふ^ふと^とい^いふ^ふあ^あり^りれ^れ
と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う

と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う

と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う

と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う
と^とい^いふ^ふあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^う

とつとも侍り

下流や志とくたに流く糸柳
梅れ句ふ

志とくたに流くや下流の糸柳
うらう糸柳と糸梅と同一
趣向と二句は合ねるるは
さぬ志とくた侍りん

自然にや川邊人乃川柳
けさうひよ

志とくたの歌やす川邊の川柳
とつとも侍り

佐保娘れあこむすひう糸柳
女郎花の句ふ
五音あはあまこむすひう女郎花

とつとも侍り
木末とほらうあまこむすひう糸柳
月の句ふ

山の井やとほらうあまこむすひう
とつとも侍り句ふ

さら髪と文ゆの風乃柳
けさうひよ

ほろ糸あまこむすひう髪乃柳
とつとも侍り

去原乃柳のみいあらう
大子集ふ

糸柳のかりけさうあらう
とつとも侍り

揚中死うとせぬあまこむすひう柳

楊を絶股ふりこぬのあり
りか絶傳ふんくも位百此媚
をいひけさるるあまり小平懐
たる趣向し

風や相場あうりさうり此糸柳

夜巻流波よ

あまのい柳へあうりさうり夜
とつるも伝り

気力もあてりさきや肝の糸柳
も夜巻よ

気力もれをな合やにさる糸柳
とつる先化の伝り

いけて糸枝やこけふの糸柳
又け他も糸梅の匂ふ

いけて糸枝やこけふの糸梅
と伝り右ももきこくく又

糸柳糸梅といひくして安あも
二所ふ入もさうけそい同化も

之定て撰るれいさあるさよ
しり教入事んとの事るえかれ

と曰いしきもいさ事んよりい
いれいさあはまもさるえい糸

撰るの所黄ゆいりふいさよ
てとさしれもくす糸柳を

うさうらまもさうり他心
むすわれもいさ事よや伝ん

今よりいんも今や姥柳
いさうい又け他も

みづらな家妓といふまゝの娘柳
ともつり伝はるゝ娘よみとらる
みめる

おあやまの娘いふまゝの娘柳
あなほのいとく人の句よ

おききつゝあやまの娘いふ娘柳
とつらもつり

門はふあやまの娘いふ娘柳
あやまの娘いふ娘柳

朝はよわししうらゆるはらら
と伝はるゝあやまの娘いふ娘柳
あやまの娘いふ娘柳

お娘の娘のたれいふ娘柳
娘の娘のたれいふ娘柳

梅子の花をたれいふ娘柳
とつらもつり

けあしつらにははらら娘柳
た子集ふ

おけ子ともつらにははらら娘柳
とつらもつり又あやまの娘柳
あ人の句よ

つらはあやまの娘いふ娘柳
とつらもつり

我とあやまの娘いふ娘柳
あやまの娘いふ娘柳

あやまの娘いふ娘柳
とつらもつり

あやまの娘いふ娘柳
あやまの娘いふ娘柳

初鳥舞波よ

野色よふきて半の筆も下りて筆

とつるも侍り

こゝひの鳥ありとよまらう花は

鷹舞波よ

こゝひの鳥ありとよまらう鳥の口

とつるも侍り

こゝひの鳥ありとよまらう花は

花の匂よ

月夜よふとてささるる花は

とつるも侍り

よふとてささるる花は

毛吹草よ

こゝひの鳥ありとよまらう花は

とつるも侍り存名花他へ

花を雨あふさかすやのらけ

楓の匂よ

花よさるるけいりり見楓

とつるも侍り又げ集む入侍り

あふ大墨後勝と云人の匂よ

咲か交ちあけい母ら花の匂

とつるも侍り

連歌師あす何人花の匂

けなすいよ

あすのや何連歌師の花の匂

とつるも侍り先死か目つら

但右花の匂れ匂い友子集り

入侍り花の匂れ匂い

かろく華や今たかろく花威
毛吹草ふ

龍田川よ今こかろくおまは
とつらも作り

仙り郵ま書や初乃花富
けりひひ

土性れひや初乃れ留
とつらも作り

友衣の今ふ錦はらは也
文衣の今ふ

衣う了了後の妻やならは也
とつらも作り

花よくむじらあまうあるある
ままくまた今傳受仕傳とこ

長取丸とあひうふとありようご
ももくまよなるおもや玄仍古

今相傳れ今ふ紙巴
ままとと道傳あるや花の者

とつら作るふ桃階神るはは是
ゆゆふふええくくももううららも

いいまま屋うやゆんん又りやん
はあ吟のあひて長取丸百首あ

れ中あまかてをと
あらははまま何しももあらぬた和家あ

ね目つらもくもあむむとあるは
とらあまを心をた祥として

よき一海もまい海もいれりとし
ぬ道をれはたくくからあげはあ

いらぬ千鳥よよこ多紙ちんし
百こひ侍受志さうも下もふ
下もにしてしれあまをれれ秘流
あり

ひきつはむありんう花の白門
はまうひよ

笑つらむありんのたよ花のぬ
とらうも侍り

あけさう風も花やこまき
毛吹草屋の句よ

け寺の門乃衆やこまき
とらうも侍り

あめくらくまんとま花紙紙
花のらくまんとらんよめる

又げふこ三花寺れ花をと前
うきありて

ねあく枝んこけ花威
とらうも侍り

花あさうてのわん物花紙
みる花の花ふなうてのわん
とらうも侍り又花人れ花よらうて
花のさよのわんとさ事んか
あさうまうにれまきこあま

花やびうう花中おの男山
梅の句よ

花も今う花中細玄梅所
とらうも侍り又花者の句よ
花も今う花中得の梅も

ともつり

永よりあし一花より寸法師が
夏月れ句よ

新しき一寸法師夏月
とりくもつり

花より一めりや若世は鬼前鬼
花れも花のさきもやうれ越白
とりくもつりや移むく
しきうあしとけこのうらこもの
よめりつりえいとねさうきね
鬼前鬼をさきを貴奴一ゆきも
そ念もや

若や空方ほけは花のうら
このみもつり一ゆきもつり

へにいたる

花のさきもつりしきう
一寸のさきも花のさきよ鈴を
ほけさきもつりしきうと
えきよもつりしきうと
とりくもつりしきうと

他名南無守但とあり苗前ま
のよき人の佐はるやういよ
さんくみらむいよるる花を
とあり一寸れさんくじら
むきそくしつりしきうあまのり
しきう若しなるといよよと三三
九といひけしてと作意もある

春のあまりあきしはあてしは
 うやうやうあめれしあつと母
 月のあまののの鈴ふらふら
 てふよのあししあふふあふ又
 交番のあふ

夏菊のあまあふはくふ九月
 ことふはふらふらたしあし
 とも

花をばあふし今あふあふ
 いらぬ花のあふあふあふあふ
 さとあふしあふあふあふあふ
 ねあふあふあふあふあふあふ
 ちあふあふあふあふあふあふ

咲花のあふあふあふあふあふ
 花のあふ

虎あふあふあふあふあふあふ
 ともあふあふあふあふあふあふ
 ともあふあふあふあふあふあふ
 ともあふあふあふあふあふあふ

まよあふあふあふあふあふあふ
 世あふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふ
 まあふあふあふあふあふあふあふ

ねあふあふあふあふあふあふあふ
 ほうあふあふあふあふあふあふあふ

あまのつとめは雛子つまひな
 むくろくくとちら母さん
 ねたれおぼろく紙のちろと
 海にのりあけりぬくれゆ
 とよあり

まの袋つとめ袋うやあまう
 袋のちよ

花袋お珠袋うや花袋
 とつと独娘

奇すきお結節おれ乃嘘うふ
 蛭子おれとつとあまのえおれ
 るうや又おお橋おとあま
 のちよ

奇すきお結節おれ乃嘘うふ
 るもつとお結節おれ乃嘘うふ

合戦おのりうや二位おまう
 け二位おのりうや二位おまう
 さそ合戦おのりうや二位おまう
 兼久の合戦おのりうや二位おまう
 うや他清盛おのりうや二位おまう
 とらひおのりうや二位おまう
 合戦おのりうや二位おまう
 うやおのりう

昔おのりうや二位おまう
 合戦おのりう

川柳らうや二位おまう
 とつと柳の葉と若の葉
 うらうらうや二位おまう
 まておのりうや二位おまう

春の野に胡蝶の舞は芝原
女子集ふ

とこひ玉花をよ小蝶のぶらり
とらるもゆり

都のあきいぬも人れ口へ蝶の舞
毛吹草よ

まじ人の舞う小蝶おぢり
とらるもゆり

蝶つらひ申する二人志川
長政丸句は昔よ

つぎに二人おぢり蝶の舞
とらるもゆり

桃李おぢり今日のおぢり
おみ史記は桃李不言下自成

蹊とらるもゆり詩奇ふけ越白

ゆり但孝本れものもんり古
よふあふ家と昔供はおぢり
よふあふ又むり一おぢり

道ありとらるもゆり
細るゆり

とよめおぢりせんごう遊あそび遊あそび之日中記云
彼地多有螢火光神及環声
邪神復有草木威能言は語

曲あゝの忍んしのぶとらるもゆり
冬月のゆり

冬月とらるもゆり
と日集ふ入るまじりゆり
他ゆり

四二
一十
鉄炮の下や花のたのび
花の繩はよ

花の繩はよ
花の繩はよ
とらつても伝はり

ひつちまう描てもほや餅下し
葛の糸をよとさくのうよ

極りて味よくほくや餅下し
とらつてもほくはさの匂くはさふハ

ちも丸息をよとらつてもほくはさ
とらつてもほくはさ

風のもてまひよとらつてもほくはさ
宗祿連房のうよ

ましよえちあつてふ神をよほし
とらつてもほくはさ

おどりのも物を賣ればよとらつてもほくはさ
けりよければよとらつてもほくはさ

おどりのも物を賣ればよとらつてもほくはさ
とらつてもほくはさ

とらつてもほくはさ
とらつてもほくはさ

とらつてもほくはさ
とらつてもほくはさ

とらつてもほくはさ
とらつてもほくはさ

とらつてもほくはさ
とらつてもほくはさ

とらつてもほくはさ
とらつてもほくはさ

門口とさきくや友れ縄すまれ
夜寝流はよ

朝日さきうらうらや縄をこ道
ふれ白うらまきよちうひめのゆる似
友の縄をさしと流るきたら木
れをけうく秋又まのさいまきり
このまきゆるえ

岩れ肩よかく流たはさきや友うら
長たぬりよ友子集よ

初めねよかたれる若屋むたなまき
とらうもゆり

岩れ子うらうまきり部
日集部ふれり子

岩のり子あう流よめ部よ

とらうの夜寝流はよも入たり他志
坂中重次とありいりまら先地とん
花よ蝶け舞下ハ部系ハ伴勢梅
夜寝流はよ

みこけ舞すまや小蝶乃伴友梅
とらうもゆり

梅田ハ友ハ佐保娘ハけらでん
友子集よ

梅田ハ友ハ佐保娘ハけりハ
とらうもゆり

風よちち花ハこきうら友梅
夜寝流はよ

葉ハこきう花ハけりハ友梅
とらうもゆり

二 女くりく二家三山四姥五梅六止

太子集よ

ちうつのふももも山姥梅止

とつも侍り

こう人代衣されやりく逢梅

冬梅の句よ

あう人代衣されやりく逢梅

とつも侍り

とを梅たくく一枝花見うふ

日集宮止句よ

宮花のたくく一枝みのうれ

とつも侍り

小梅たちうくくあふあうくく

一句のはま小思れかようとあて

てあうくくあふあうくくと水の

池あよいひけてつるおきく水

れありくくくといひくれ

我と花れ白ひとやく普賢教

毛吹の句よ

とのくくあふあうくくと普賢教

とつも侍り

風の口とらよ表紙乃糸とく

又日集宮止句よ

風袋口とらてきけ糸梅

とつも侍り又太子集よ

風袋口めひとめよとく

彼太の三句い等れのうえきれめや

めんくの揚も花の袋梅

當市主徒と云人のちり

めんくの楊をれます花は
とつともぬも是

梅田れ僧起ハ吉野法師ハ
けきこひ

梅田ハ吉野法師の寺領は
もめれり花りハ等れりとのまは
あり

氣力あり柳ハちり焼さ
及子集

そららあふたハ能又ハ焼梅
とつともはり

花のすや在介ハ万葉傳梅
一りのん花乃寺ハ在々ハ万葉傳

物産ハゆるしそハ能今ハ万葉

いこもあまのこハ伴勢也能るた
おれすのわおハゆるめハありを

花とみくあめハ淡也伴勢梅
あふりしとふりそハ万葉

あねハ能お余の花ろやハ梅
あねハあの時なるハれとよの

花ろもこハ万葉
あふりしとふりそハ万葉

あふりしとふりそハ万葉
あふりしとふりそハ万葉

花れあのはわてよしハ梅
世話ハ有るあれハありとハ

とをけり花のふれハありと
れとつともはり

さくらうらやさうと枯ぬきれを
 滅しきちかひれ庵うらるるの他れ
 人しむりかきと花さる梅より
 けるしひよ又げ能え
 うきこおをたてくみふり善賢象
 とちりり

風まわ風よきくしあき
 一白れん家梅よ風のあふりあふ
 風のめいそあよ又きくしあき
 めとくしあきくしあき
 こめ

猿舞のさげきや梅の家梅
 ちかきくのさげきくしあき
 れたぬ猿舞にさげきくしあき

ちかきくしあきくしあき
 あきくしあきくしあき
 こらせくしあきくしあき
 くしあきのめくしあき
 とくしあきくしあき

三途川越しきくしあき
 けきくしあきくしあき
 越れ坂越しきくしあき
 とくしあき
 うらやさくしあき
 けきくしあき

花の文乃くしあき
 とくしあき
 出度れけきくしあき

いふ母出家くも娘の^{えんやく}料取所
取^しる

すめ男持やさうめの娘さう
友子集よ^よは作者

十所をほけけさう^{さう}娘梅
ともりり四他志あ^あまり也

こきた^た又別の花あ^あまは梅
ま^まき^き純^{じゆん}た^た服^{ふく}師^しの^の真^まむも

あり又^あ誰^たさ^さらん^{らん}汎^{はん}池^ち諧^{かい}の^の念^{ねん}
え^えの^のあ^あく^くみ^みけ^け作^{さく}志^し

た^たあ^あ是^しい^いう^うさ^さう^う考^{こう}て^てそ^そつ^つれ^れた^た
服^{ふく}ま^まは^はき^きう^うぬ^ぬ汎^{はん}を^をい^いふ

とも^{とも}あり^りた^た干^{かん}一^{いつ}句^くを^を以^いて^て丸^{まる}地^ち之^し
る^るも^もあ^あふ^ふの^のあ^ある^るた^たう^う梅^{ばい}鯛^{たい}

お染鯛^{おせんたい}は^は白^{しろ}よ

あ^あり^りも^もあ^あま^まの^のあ^ある^るた^たあ^あう^うお^お染^{せん}鯛^{たい}
是^しい^いう^うさ^さう^う考^{こう}て^てそ^そつ^つれ^れた^た

ま^まも^もあ^あま^まの^のあ^ある^るた^たあ^あう^う梅^{ばい}鯛^{たい}
毛^け吹^ふ草^{そう}あ^あお

枚^{まい}や^やき^きと^とり^りあ^あふ^ふを^をま^まそ^そ梅^{ばい}鯛^{たい}
と^とり^りも^も作^{さく}り

山^{さん}海^{かい}れ^れら^らん^んあ^ある^るれ^れや^や梅^{ばい}鯛^{たい}
お^お染^{せん}鯛^{たい}の^の白^{しろ}よ

山^{さん}海^{かい}の^のち^ちん^んあ^ある^るれ^れや^やお^お染^{せん}鯛^{たい}
と^とり^りも^も作^{さく}り

は^はあ^あひ^ひす^すの^の袖^{そで}ま^まに^にも^もや^や梅^{ばい}鯛^{たい}
有^ある^る梅^{ばい}鯛^{たい}よ

西^{せい}の^の美^みれ^れ袖^{そで}ま^まに^にも^もや^や梅^{ばい}鯛^{たい}

とりるも侍り放持するゑひ秋
あまれめも花見とするや梅鯛
當本ね恩幸順と云人のりふ
あまれめや尺取の月も梅鯛
とりるも梅鯛と云

目に色くもあはれもさるや梅鯛
去草侍らふ

はるのまほしき梅鯛
とりるも侍り

天水れをわがさきまの花
まづきも取れより云ふと云池
借の道れ一巻とゆるさくし時
むくきの命もあつし一句のんまの
天水とりもみさをもひとらふけり

かきけりもさきまのりやまこと
いふもれ先年春梅鯛は付合
れ中も

星もけりさうさくひはら
と云まのりふ

錦の字もわいらは直にまあん
とつてさありふ林を奴もそ
錦の字の星もさくしと云あ
夜促いうあもさくしふさめん
とりらり人さくしと云ひふ
ゆりーさけりもさくしけあ
とりふ文字のさくしと云あ
のいまもあさくしと云あひ
と云あさくしと云さくし

又女子集未言れ句ふ

はかみあいらうけらしれぬ言ふ
とりくも侍り

海棠と眠花よりすう小蝶は
友子集親き句ふ

海棠もはきて居眠こそあは
とりくも侍り

四時や海棠柳てふ翁

長丸のくくもくも四時とけ
寒山拾得典是干庵之け句新

四時とりく海棠蝶は句侍り
柳ハ眠柳とりく故し侍れ

りくもあえし菊はくも侍り
えぬ性気おとらてすも侍り

まらよはけ外く侍り物さ
くく猫猿と屋の物さ

あえかれハ十雁あえ侍り
障中そあれ 宿もや嫁う萩

毛吹草弘永句ふ
障中そあれ 宿もや鬼筋

とりくも侍り
おんものひもようし侍り

おん人のきんよき侍り
さまのきんよそのひも何

の侍れ侍り
花枝ふつめとみよ侍り

花語よ落花難上枝破鏡不
重昭とりくも侍り

重昭とりくも侍り

花のえふふりてぬとみよ三條
 ともしひも人よいらひこよ祇
 此傍ら又永年下崑山集もよ
 のよふ長夜片人のあせりま
 乃中女

花の根よりうらぐらうて津
 とつら長夜丸長とて別撰
 方へ厚くまじりまたりうま
 ちうしひきひきひきひき
 あつらふとてうらうらひ
 但地ををさういとてを撰
 まいふもたかくかきうと
 よすうもまじりまたりうま
 瓦親疎のてそは是れを
 おろくといえひひひひひ

白井中よ是ほよの白新ひ
 もたけつゆら物と

早やめあていひひひひひ
 も吹きたに

ふひきそ早やめあていひ
 とつらまゆら

あつきてやちをたつらて
 招草の句よ又は作

招草やまきそあつらま
 とつら回意よや

まきそつらまきそつらま
 まつらまきそ

とあり一向れは立者のあ
 此物語とつらつらつらつら

きりく醫者のあへんをり我より
おろし一川をみるも道々けいわらうんかん
を依として業と合あ録ろくをかいて
一片をみるも一をみた一をあん
入志をうりこくまよわらかりか神
うれをとりうも一けんをあら
井られをるれきうはかく亡却ごう
多方なら故ををはきて玄流
のためあらあうくめいあくちん
るりえちるりいせ丸作

